



**blea**

こんにちは。

ぶれあ保育園です。

子どもたちの未来を預かる

お仕事と子育ての両立をサポートする

家族が愛ある毎日を過ごすために支援する

保育園には、たくさんの役割があると、

わたしたちは考えています。

この本にこめたのは、

ぶれあ保育園の心からの想いと、

保護者の皆様の視点から見たリアルな声。

わたしたちの考える保育園のあり方を、

ぜひ知っていただければ嬉しいです。

ともに愛する。  
ともに育てる。

- 08 1. ぶれあ保育園の目指していること
- 12 2. ぶれあ保育園の保育方針
- 16 3. ぶれあ保育園の行動方針
- 22 4. わたしたちにとっての”ぶれあ”
- 24 | ・ 孤独にならない、子育てへ。
- 32 | ・ わたしらしくあるために。
- 40 | ・ 二人三脚で、愛を注ぐ。
- 48 | ・ 親にとっての、拠り所。
- 56 | ・ わたしの子育ての先生。







子育てに関わるすべての人が、  
子どもを、めいっぱい、愛せる環境をつくる。

そのために、わたしたちは、  
孤独な子育てをなくします。  
相談できる。話し合える。わかりあえる。  
保育のプロとして、ともに向き合い、  
ともに愛し、ともに育てる保育園。

わたしたちが目指すのは、  
すべての家族に、愛があふれる毎日です。

# 1

## ぶれあ保育園の 目指していること

ぶれあ保育園がなぜあるべきなのか。

わたしたちが考える、ぶれあ保育園の存在意義、

そして、その先にある、目指している未来について。





ぶれあ保育園の  
目指していること

すべての家族が、  
子どもを愛しつづけられる、  
未来をつくる。

「子どもを愛しつづける」ということは、当たり前のように、本当はとても難しい。思うようにいかない、正解がない、余裕がない、迷うことだらけの子育て。そんな子育てを支えることで、私たちは少しでも家族の負担を軽減しながら、子どもたちの学びや成長、家族の笑顔に貢献できるような場所をつくります。保育のプロとして、保育園という社会インフラとして、「子どもを愛しつづける」ことができる未来を。



# 2

## ぶれあ保育園の 保育方針

子どもたちに、どう向き合うか。  
子どもたちに、どう感じてもらうか。  
保育とは、子どもたちの未来をつくること。  
だからこそ、大事にしたい私たちの方針です。







## 2

ぶれあ保育園の  
保育方針

愛ある保育を通じて、  
“自分らしさ”を  
大切にできる子どもを育てる。

「愛ある保育」とは、子どもたちの気持ちや考えを尊重すること。子どもたちが何に興味を持っているか、何をしたいと考えているか。子どもたちの気持ちや考えに寄り添いながら、保育をしていきます。

意志を尊重する。抱きしめる。語りかける。聞く。察する。考える。喜ぶ。褒める。  
1つ1つの積み重ねこそが「愛ある保育」だと考えます。

そこから見えた、こどもたち1人1人の個性、「その子らしさ」を生かせる場所をつくることで、子どもたち自身が「自分らしさ」を大切に、自分自身を愛し続けられる人生を送ってほしい。ぶれあ保育園が目指しているのは、そんな、子どもたちの豊かな未来です。



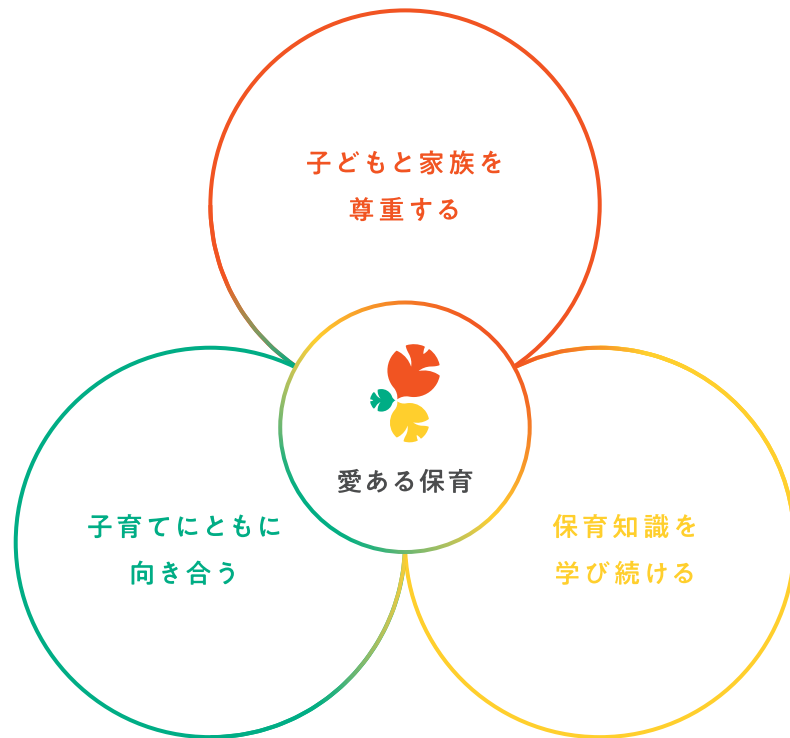
# 3

## ぶれあ保育園の 行動方針

保育園は、人でできています。  
子どもたちの大切な時間を預かり、  
保護者のみなさんを支援にする立場にある、  
わたしたち自身の、みなさんとの約束です。



保育のプロフェッショナルとして、  
子どもたちとその家族に向き合います。



ぶれあ保育園が考える「保育のプロフェッショナル」とは、3つの要素で成り立ちます。

### 1. 子どもと家族を尊重する

子どもの意志や気持ちを、おざなりにしない。愛を持って接し、言葉だけではなく、行動から汲み取り、考え、その子自身の想いや考えを尊重した保育をします。また、その子どもたちを支える、ご家庭の方針や思いも尊重しながら、保育を行います。

### 2. 子育てにともに向き合う

保育園に預けている時間だけが、保育ではありません。家庭と保育園の二人三脚で子育てをすることが重要だと思っています。子育ての悩みや不安に寄り添ったり、保育園での成長を報告したり。ご家族と子どもを二人三脚で育てていくことを大事にしています。

### 3. 保育知識を学び続ける

保育士は専門職です。時代や価値観の変化に柔軟に対応しながら、ご家庭で起こる子育ての悩みの解決や、お子さんの成長を保育から支える役割を担うべきだと考えています。そのために、わたしたちは、常に必要な知識を学び、成長し続け、保育を磨き深めていきます。





# 4

## わたしたちにとっての ”ぶれあ”

ぶれあ保育園に実際に通う、  
保護者のみなさんに、  
子育てとぶれあについてのお話を聞きました。  
ご家族の目線を通してみた  
“ぶれあ保育園”をご覧ください。







## 4

わたしたちにとっての”ぶれあ”

### 孤独にならない、子育てへ。

ぶれあ保育園 武蔵中原園 / 高城 春くん / 光くん

第一子が生まれたとき、私は仕事を辞めました。

もともとは、接客関連の仕事をしていて、

どうしても平日の夜が忙しい仕事。

生まれてくる我が子のため。

そう思って、子育てに専念することを決めました。

でも、子育ては思った以上に大変だった。

夫は、子育てに協力的ではあったけれど、

過ごしている時間の量が違う分、どこかで孤独を感じることもあって。

そう感じる自分に罪悪感もあって。

葛藤している時期だったと思います。





なんとか、自分なりに、

子育てしながらできる仕事を探そうと思って、

はじめたのが、絵を描く仕事。

依頼に沿って、希望のイラストを書いて、納品する。

最初は駆け出しだったので小さい金額だったけれど、

徐々にまとまった金額を稼げるようになってきて。

そうやって仕事が徐々に軌道に乗り始めたときに、

第二子が生まれることに。

もちろん、子どもを授かったことは本当に、嬉しくて。

でも、わたし、また、仕事を受けられない状態になるのかな。

そう思ったら、少しだけ、落ち込んだんです。

その時気づきました。

やっぱりわたしは、仕事も子育ても両立できる生活を目指したい。

それがわたしにとっては大事なことなんだ、って。

そうして、わたしのちょっと遅めの保育園探しが始まりました。



フリーランスでも、子ども預けられると知って、  
真っ先に役所に相談しに行って。  
中途半端なタイミングでも、ぜひに、と受け入れてくれたのが、  
ぶれあ保育園。  
しかも、兄弟二人ともがお世話になれる。  
それだけで、涙が出そうだった。

「お母さんが、自分のことを大事にできないと、  
子どもはごきげんに育たない。  
だから、自分のこと、ちゃんと大事にしていんですよ。  
わたしたちは、お仕事も、子育ても応援します。」

園見学のときに、そう言われて、私をはじめ、  
味方が現れたような気がした。  
そうか、誰かを頼ってもいいんだな、頼れる生活が始まるんだな。  
だんだん、目の前が明るくなったのを覚えています。

あれだけ、頼ることを望んでいたのに、いざ預けるとなったら、  
ちょっぴり心配になったりして。  
特に、下の子は、生まれてしばらく経ってから、  
はじめての集団生活になるので、  
馴染めるのかなあと思っていたのですが、  
本人たちはケロッとして、すっかり保育園に馴染みました。

そうして保育園で教わったことを、楽しそうに話してくれる彼らを見て、  
ああ、この子にとっても、きっとこの選択は楽しかったんだ、と思うことができます。

わたしが孤独であったように、もしかすると、彼らもこの世界にわたししかないことが、  
実は少しだけ、窮屈だったのかもしれない。  
保育園に通うようになって、いろんな世界が広がって、  
のびのびしている様子を見ると、嬉しくなります。







子どもが熱を出してしまって、  
病気で何日か休むことになったときも、  
ぶれあの先生たちは、お手紙と、  
家でできる塗り絵を贈ってくれました。

これは、子どものことを想う気持ちもそうですが、  
家で子どもが1人でできる遊びを用意して、  
親の負担を少し下げしてくれる工夫でもある。  
こういう気遣いが、  
ぶれあ保育園の素敵なところだなと思います。

「大丈夫？無理はぜったいだめよ、頼ってね」  
送り迎えでいっぱいになる私をみて、  
先生がかけてくれる言葉。

そんな言葉が、何よりもほっとして、  
安心で、嬉しくて。  
わたしもまた、頑張ろう、と思えるんです。

ああ、ぶれあに頼ってよかった。  
今振り返っても、心からそう思います。

わたしたちにとっての”ぶれあ”

## わたしらしくあるために。

ぶれあ保育園 川崎南幸町 / 荻野 凜帆ちゃん

夫と結婚して数年後に、  
第一子として、りほが生まれました。

お互い仕事も頑張っていて、忙しかったし、充実はしていたけど、  
やっぱり子どもは欲しいね、とは話していた。

二人で相談して、そのために検査や治療などしながら、  
生まれてきたこの子を見たときは嬉しかった。

幸いなことに、職場はとても仕事との両立を応援してくれていて、  
先輩のお母さんたちもいっぱいいたし、  
安心して、子育てをスタートすることができました。







りほは、すごく、すごく元気な子。

夫は物静かなタイプで、私もそんなに騒がしいタイプではないから、  
ふたりで誰に似たんだろうか?とびっくりしたくらい(笑)

好奇心旺盛なことは、りほの個性で、  
素敵なことだからとても良いことではあるんだけど、  
椅子に座って、落ち着いてご飯をたべるのもできないし、  
服を着せようとする、脱いじゃったりするし、  
正直、思った以上に、子育ては大変でした。

しかも、りほが生まれたときは、ちょうどコロナ禍の真っ最中。  
家に人を呼ぶのも、外出するのも大変で、  
人にもあまり会えない時期だったから、  
どうしても、この世界に、りほとわたししかいないような気がして。

なんとなく、不安が大きかったのが、育休の期間でした。





育休期間が終わって、りほを、ぶれあ保育園に預け始めて。

仕事復帰してからのほうが、わたし自身、いきいきしてるかな、って思います。

最初は子育てと仕事、両立できるかなって不安になっていたところもあったけど、人とコミュニケーションを取ったり、一瞬、子育てをわすれて仕事に没頭したり。仕事をしていると、自分が生きている感じがする。

でも、そうやってできているのは、想像以上に、りほが保育園を楽しんでいて。それに、安心しているからなのかもしれません。

夏に保育園で水遊びの日があったんですが、他の子は、水に濡れるのが怖くて、慎重になっている中、「りほちゃんは、自ら、楽しそうに水に濡れに行きました!もちろん、お着替えはしていますが、頭や髪はまだ濡れています。」という報告を、保育園の連絡帳でみて。

おいおいおい!と思いつつ、でも、りほならやりかねないな、面白いなって、くすって笑ってしまいました。

お迎えのときも、先生たちが笑いながら、「今日もりほちゃん、ほんとに元気だったね~!楽しかったね~!」と声かけてくれて。どこか自慢気に、にこにこしているりほを見て、よかった、りほはここに通えて、楽しくしているんだなって思います。





今、振り返ると、子育てをスタートしたときのわたしは、  
ちょっと真面目にやりすぎていたんだと思います。  
全部ひとりで、頑張らなきゃっていうのが強くて。

りほは、保育園に入ってから良い意味で変わりました。  
ご飯も座ってちゃんと食べれるようになったし、  
自分で準備したり、じっとできるようにもなってきた。  
たくさん、お話もしてくれて、いろんな人とコミュニケーションをとって。  
毎日毎日、楽しそうにしてくれている。

きっと、わたしひとりで、ずっと育てていたら、  
こうはなってないんじゃないかなって思うんです。

手を抜く時は、手を抜いて。向き合うときはちゃんと向き合って。  
そういうバランスがとれているのは、  
ぶれあ保育園という存在があるからだ、と思っています。





## 4

わたしたちにとっての”ぶれあ”

## 二人三脚で、愛を注ぐ。

ぶれあ保育園 赤塚園 / 佐々木 美波ちゃん

仕事の都合で、大阪から東京に引っ越して、子育てを始めました。

夫もわたしも全国転勤がある、営業職。

お互いに、フルタイムで働くことを希望していたので、  
保育園には預けるって、生まれる前から決めてはいたけれど。

保育園に預ける時間は、親から離れる時間。  
生まれてきたこの子に存分に、愛情を注ぎたい。  
離れ離れになることが、本当にこの子のためになるのだろうか。  
可愛くて、可愛くて、離れたくないなと思ったし、  
早生まれのこの子が、ちゃんと保育園についていけるのか。  
そんな不安な気持ちが、なかったかといえば嘘になる。

でも、保育園をきめたとき、ぶれあに見学に行って。  
先生たちが、あたたかくわたしのことを迎えてくれた。  
だから、預けてみようと思えるようになりました。





ぶれあ保育園に預けてはじめて、感じるのは、  
集団じゃなくて、その子とその親のことを、  
ちゃんと見てくれている、ということ。

0歳、1歳、2歳と、先生たちの担当はあるけれど、  
どの先生も、みなみちゃんのことを知ってくれていて、  
「みなみちゃん、こんにちは」と声をかけてくれる。

早生まれで、周りの子よりも、成長がゆっくりなんじゃないか、  
他の子と打ち解けられるのだろうか、集団生活に取り残されないだろうか、  
そんな心配が、徐々になくなっていきました。

そして、同じくらい、保護者のわたしたちの声にも耳を傾けてくれる。  
例えば、延長保育のこと。こちらが要望したら、すぐに改善してくれて。  
働く親の事情を真摯に受け止めてくれる、それに、ちょっと感動したりして。

わたしが、安心して働けるのは、ぶれあのおかげだな、と思います。





ある日、夫が出張帰りに持って帰ってきた駅弁の空箱を見て、  
「あ、しんかんせんだ!」といったときはびっくり。  
だって、新幹線なんて言葉、教えた覚えがない。

どうして知っているのかしらと聞いてみたら、  
どうやら、保育園の1つ上のお兄ちゃんが教えてくれたみたい。  
にこにこ自慢げに「ほいくえん、たのしいよぉ〜」と  
ごきげんに教えてくれて。

周りの人からもたくさんの愛をもらって、  
この子が、ごきげんに過ごしていることが、  
最近は本当に嬉しいです。



預けられる中で、一番早い時間に預けて、  
一番遅い時間に出迎える。  
仕事と育児を、両立する生活をはじめて7ヶ月。

最初は離れるのが寂しくて大泣きしていたこの子が、  
先生たちの顔をみるとぱっと泣き止んで、  
平気な顔をして保育園に通うようになりました。  
親としては、ちょっぴり寂しい気持ちもあるけれど、  
それより安心のほうが大きかった。

「今日は、みなみちゃんはこんなことができるようになりました」

「今日も、とっても可愛かったですよ」

「今日は、初めてこんなことに挑戦してみました」

送り迎えのときに、毎日、先生たちの報告を聞くたびに、  
自分の子どものように成長を喜んでくれて、  
美波ちゃんのことを大好きでいてくれる。  
二人三脚で、愛を注いでくれるんだなって感じます。

だから大丈夫、わたしは、わたしが一緒にいるときに、めいっぱい、  
みなみちゃんのことを好きであること、愛していることを伝えよう。

それが、この子のためになるんだって、今は心から信じられます。



わたしたちにとっての”ぶれあ”

## 親にとっての、拠り所。

ぶれあ保育園 武蔵中原園 / 塩崎 湊太くん / 章人くん

わたしには子供が4人います、みんな男の子。

0歳から2歳くらいまでは性別の差を感じなかったけど、  
3歳を過ぎたあたりから、男の子の行動範囲の広さに驚かされて。  
バタバタと毎日子育てをしています。

長男が大きくなって、やっと、弟たちをみれるようになってきた。

でも、気づけば、次男と喧嘩してたりして。

「やめなさい!!」と言っても全然辞めなくて。

わたしも負けたらいけないぞ、とおもって、

強気の子育てを進行中です(笑)





同じ環境で、同じ親から生まれているのに、  
性格は全然違う。これが不思議で面白い。

たとえば、長男は、保育園ではよく褒められる優等生。

周りの子の面倒までみれるしっかり者。

でも家では、わがまを發揮したりする甘えん坊。

もしかしたら、彼なりに無理をしているのかもな、と思ったりします。



たいして次男は、割とどこでも穏やかで自然体。

長男にちょっと意地悪をされても、

お兄ちゃんのが好き!といえる、

彼ののんびりさに、救われることもあって。

三男と四男も、きっと、大きくなったらより一層、

面白いことも、大変なことも、たくさん、増えるんだろうな(笑)

子育ては大変だけど、子どもって面白いな、って思えることがたくさんあるから、

なんとか頑張れているのかもしれない。



でも、男の子は、力も強いし暴れたりすると手もつけられなくて、  
わたしが怒りを抑えられないこともある。  
というか、怒らないと彼らを抑えられない、に近いかな。

長男が保育園に通っていたときに、外では優等生をしてしまう故に、  
家でのメンタルが不安定だったことがありました。  
そんなこんなで、それでわたしもちょっと疲れてしまって。

そんなときに、ふと、先生がわたしの顔を見ていってくれました。  
「お母さん、疲れてない？大丈夫？」って。

そんな言葉に、何度救われたことが。  
そうやって、子どものことも、親のことも、あたたかく迎えてくれる。  
あ、毎日、わたしのことも見てくれてるんだなって。

「お母さんがごきげんなら、子どももごきげん。だから自分を大事にしてね」  
いつも、ぶれあの先生は言ってくれます。



お迎えのときに、次男と三男が保育園内をダッシュしている。

わたしは、周りに迷惑をかけまいと、

子どもにあれこれ言いたくなってしまうんだけど、

ぶれあの先生はニコニコしながら、

「走るの大好きだもんね、元気いっぱい素敵だね」と、  
褒めてくれて。

そうすると子どもたちも、ニコニコとごきげんになり、

「先生、ばいば〜い!」と手を振って帰宅する。

なるほど〜! そうやって褒めるといいんだな。

と、わたしも学びになったりすることが多々あって。

頼れる子育てのプロが、ぶれあにはいるなと思います。

ぶれあ保育園には、兄弟全員を預けていますが、

それは、子どもにとっても、親にとっても、安心できて、

頼れる拠り所だから。

4兄弟の子育てを、なんとかわたしがやりきれているのは、

ぶれあ保育園のおかげですね。





## 4

わたしたちにとっての”ぶれあ”

## わたしの子育ての先生。

ぶれあ保育園 南行徳 / 大庭 暖翔くん

初めての育児は、とても不安でした。  
友達もないこの街での、子育て。  
育休中、日中ずっと、息子と家にいると、  
どこか、孤独を感じることもありました。

一方、私の夫は子煩悩で、前向きで、子育てには積極的。  
週末にすごく楽しんで育児をしている夫を見ると、  
わたしとは、どこか違いを感じてしまったこともあって。

それでも、屈託のない息子の笑顔に何度も救われて、  
それがあったからこそ、育児をなんとか、  
続けられたんだと思います。





子育てのあらゆることが、仕事とは違って。

わからないことだらけで、思うようにいかなくて、

心配性のわたしは、育休の間は悩むことが多かった。

病気になったらどうしたらいいんだろう。

離乳食はどこまで大丈夫なのかしら。

いま、どこまでできていれば大丈夫なの？

義理の妹や、友達に聞きながら、毎日ネットで検索して。

悩んだり、にらめっこしたりして。

普段は、楽観的に考える自分が、育児となると悩みは尽きませんでした。

はるとは8月生まれ。いつ保育園にいれるべきなのか。

どんどん意思疎通がとれるようになって、可愛さが増す息子を、

1歳になる前に保育園に預けてしまってもいいのだろうか。

そんな、自問自答の日々が続きました。

結局、1歳になると、保育園にあずけにくくなるということを聞いて、

息子を0歳から、ぶれあ保育園に入園させることにしました。

それと、わたしもどこかで、相談相手が欲しかったんだと思います。

ひとりで悩むことなく、心の余裕をもって、子育てをしたって思っていました。

入園してからは、0歳の先生たちが、私の子育ての先生でした。

鼻水がでているから、小児科だけじゃなくて、耳鼻科も受けたほうがいいよ、とか。

たくさんご飯は、たべられているから、はやめに離乳食を大きくしてもいいかも、とか。

お腹の調子がよくなさそうだから、身体に優しいメニューにしようか、とか。

わたし一人じゃ気づかないことに、たくさん、たくさん気づいてくれて。

ああ、そうすればいいんだ。って安心できた。

そこから、少しずつ、わたしの子育てへの不安が軽くなってきました。





ぶれあ保育園は、規模が大きすぎるわけでもなくて、アットホーム。  
ひとりひとりを、先生がちゃんと見てくれているんだなって感じます。

息子が、はじめて立てるようになったとき、  
そこにいた先生、他のお母さん、  
他の園児のお兄ちゃんお姉ちゃんが拍手をしてくれて。  
すごく、あたたかい気持ちになりました。

朝と夕方は、全学年混ぜて、違う年齢の園児とのつながりもあるから、  
息子も、いろんな年齢の友達ができやすい環境だなと思いますし、  
わたし自身も、先輩ママたちとのつながりも増えたので、とっても勉強になります。







振り返って、  
誰の助けも借りられないままの、子育てだったら、  
わたし、きっとずっと孤独だったんだろうなって思うんです。  
あの頃に比べたら、今はすごく気が楽だし、  
わたしも子育てと仕事を両立するための  
リズムができてきた気がしています。

大丈夫、わたしはきっと楽しんで  
子育てをやっていけるって、  
そう思えるようになったのは、  
ぶれあ保育園のおかげかもしれないって、  
思っています。

## Produce

ぶれあ保育園 (キッズブレア株式会社)

## Brand Project Member (五十音順)

大澤 裕介

片岡 直子

金澤 和明

斎藤 久恵

藤得 顕

長谷川 廉那

福士 和枝

森本 斎

米倉 るみ

## Special Thanks (五十音順)

大庭家のみなさま

荻野家のみなさま

佐々木家のみなさま

塩崎家のみなさま

高城家のみなさま

## Creative Staff

Producer / 朝本 康嵩 (U.Sinc)

Creative director / 重野 茉衣子 (U.Sinc)

Director / 田中 琳 (U.Sinc)

Designer / 川島 悠斗 (U.Sinc)

Copy writer / 重野 茉衣子 (U.Sinc)

Photographer / 中村 泰介